

ふたたび夢の舞台へ

藤本貴大選手 バンクーバーオリンピック出場決定！

ふたたび夢の舞台へ

ふじもとたかひろ
藤本貴大選手

バンクーバーオリンピック出場決定！

オリンピック出場おめでとう！



激励会での藤本選手

本市出身の藤本貴大選手（黒石）が2月12日からカナダのバンクーバーで開催される、第21回オリンピック冬季競技大会にスピードスケート・ショートトラックの日本代表として出場します。

前回のトリノ大会に続いて2度目の出場です。今回は500メートル・1000メートル・1500メートルの3種目出場が予定されています。

そんな藤本選手を応援しようと、1月17日、出身校である西合志南中学校で激励会が開催されました。先輩の姿をひと目見ようと、西合志東小・南中を中心に市内の児童生徒たちなど多くの市民が集まりました。

これまで活躍してきた競技映像が流れたあと、藤本選手が登場すると、会場は大きな歓声に包まれました。

応援にかけつけた恩師や同級生が温かい激励の言葉を贈り、市民からの応援メッセージが書かれた日の丸や花束が贈呈されました。

たくさんの人たちからの祝福と応援を受け、藤本選手は「表彰台の一番高いところを狙いたい」と力強く語りました。

激励会後には、児童生徒たちとの握手会が行なわれ、大喜びする子どもたちの姿が見られました。

藤本選手が出場する競技日程は次のとおりです。みんなで藤本選手を応援しましょう！

ショートトラック男子

- 1500メートル
2月14日(日) 予選・決勝 午前10時〜
 - 1000メートル
2月18日(木) 予選 午前10時〜
 - 2月21日(日) 決勝 午前10時45分〜
 - 500メートル
2月25日(木) 予選 午前10時〜
 - 2月27日(土) 決勝 午前11時〜
- ※ 日本時間で表示しています。

心に残った恩師の言葉

藤本選手はあいさつの中で、この日応援にかけつけた中学校時代の恩師の山下勝之先生の言葉を引用し、会場の児童生徒たちに語りかけました。日本を代表して世界に挑む藤本選手の重みある言葉に、子どもたちは真剣なまなざしで聞いていました。

山下先生の言葉で心に残ったのは、『何でも一番になれ』です。この言葉の意味が最近になって分かりました。一番にあいさつする、一番に起きる、一番に教室に入るなど、何でも一番になることができます。そういう言葉がなかったら、オリンピック出場はなかったかなと思います。



思いを込めて語る藤本選手



恩師の山下勝之先生

「藤本くんがオリンピック出場を決めた日、夜10時ごろ出場報告の電話がかかってきました。うれしくて涙が出ました。金メダルを取って帰ってきなさい。」と激励。



同級生の塚本美早紀さんから花束贈呈

東小や南中の児童生徒たちからも花束を贈呈され、藤本選手の顔に笑顔が浮かびました。



子どもたちと握手する藤本選手

「がんばってきてください」という応援メッセージに一人ひとり固い握手で応えていました。

スピードスケート・ショートトラックとは



1周111.12mのトラックを、原則4〜6人の選手が同時に左回りに滑り、順位を競う競技です。通常、各組の上位2人が予選〜決勝へと続くラウンドを勝ち進んでいきます。タイムの速さではなく、各組での着順で順位が決まり、追い越しなど白熱したレースが展開されることから『氷上の競輪』とも呼ばれます。

〜藤本選手にインタビュー〜

オリンピック出場が決まった直後の12月24日、藤本選手は市役所を訪問し、大住市長へ出場報告を行ないました。そのときのインタビューの様子をお伝えします。

―スピードスケートを始めたのはいつですか？

3〜4歳のときに当時住んでいた北海道で始めました。こちらには、小学3年生の夏に引っ越して、西合志東小学校に転校してきました。

―市民の皆さんにメッセージをお願いします。

逆境の中でも没頭して突き進めば、環境が悪い中でもやれるんだと、オリンピックを通じて伝えられるようなレースをしたい。精一杯がんばるので、応援よろしくお願いします！



出場報告をした藤本選手
隣はお父さんの勉さん